



ずししかんきょうかいぎ ニュース

2025年2月号

ずしし環境会議は《まちなみと緑の創造部会》《ごみ問題部会》《二酸化炭素削減部会》の3部会に分かれ、逗子市が掲げる環境基本計画の行動等指針に基づき活動を続けています。

◇◇◇ かんきょう講演会のお知らせ ◇◇◇

今年のかんきょう講演会のテーマは海の世界を知ってもらうため海洋生態系のカギとなっている【海藻】に注目してみました。環境問題を考えるとき、地球温暖化や気候変動、海水温の上昇などの言葉を聞くことが多いと思います。《藻場の再生》が話題となる中、海藻自体の生態をご存じない方がおられるかもしれません。今回は《海藻一かいそう》と《海草一うみくさ》の違いから分かりやすくお話いただきます。講師の先生は逗子市在住の高橋昭善さんです。日本においての海藻研究者は少なく、相模湾を見つめ続けてこられた講師だからこその内容です。皆さま貴重な機会にどうぞお越しください。

令和6年度 逗子市かんきょう講演会



海藻はいきもののゆりかご

～逗子海岸 これまでとこれからの向けての
ちょっといいお話～

講師
高橋 昭善 さん
 逗子市在住 海藻研究 50年
 ホンダワラ類の気泡内髄糸の発見
 相模湾海藻調査会 主宰

海藻は食べるだけじゃない？海の世界を知って
 みなさんと地球の未来を考えてみましょう
 ご家族で、または学生さんおひとりでも大歓迎！
 ご参加お待ちしております

無料
先着
60名

事前申込
不要！

2025年 2月 23日(日)
 14:00～16:00 13:30開場
 市民交流センター2階 第2・3会議室





かんきょう講演会 検索
 2/27(木)YouTube 配信予定です

参加方法 直接会場までお越しください
 託児、手話通訳、要約筆記希望者は2月7日(金)
 までに逗子市環境都市課までお申込みください

問合先 逗子市環境都市課 電話：046-873-1111 (内線 456)
 ずしし環境会議まちなみと緑の創造部会 Email：machi73zusi@gmail.com
 主催：逗子市・ずしし環境会議



まちなみと緑の創造部会 ニュース

当部会では、「逗子の自然環境を次世代にどのように伝えるか」をテーマとして活動を続けています。



2025年も2月になりました。2月は如月（きさらぎ）ともいいます。まだまだ寒く更に衣を重ね着する時期なので衣更着と表現したことが語源というのが、諸説ある中でも有力なものようです（国立国会図書館HP）。それ以外にも、暖かい日もあり草木が生えることから生更木ということも。旧暦の2月は現在の3月中旬なので、これまでの寒い日々と暖かさが入り混じり、季節が移り替わっていく時期であることを表現したことがよくわかります。

寒さに震える陸上の様子を横目に、海の中では海藻たちが大きく育つこの季節、そんな逗子における私たちの活動について、今年の活動を振り返りながらお伝えします。



◇◇◇ 市民まつりに参加しました！ ◇◇◇

去る10月20日(日)に、池子の森自然公園400mトラックで行なわれた市民まつりに参加しました！私たちのブースでは、どんぐりやジュズダマなどの自然素材を使ってマラカスづくりのワークショップを実施し、元気な子どもたちやすてきなファミリーが多数来てくれました。

別コーナーでは外来種のオオオナモミの実でオナモミダーツを企画しました。こちらも景品のお菓子を用意してなかなかの盛り上がりでした。

名越緑地里山の会も今回初出展、名越の竹林で採れた竹で作った竹馬体験が好評でした。お昼過ぎまで風が強かったのですが、楽しい市民まつりになりました。



◇◇◇ いきもの観察会 ◇◇◇

2024年後半は、9月に田越川の中流でさかな観察会、10月に浪子不動から披露山へ登る散策路を歩き秋の植物観察会を開催しました。田越川中流のさかな観察会は、これまで桜山一丁目の柳原公園近くにある田越川と池子川の合流点で行なわれていましたが、今回は延命寺裏の下田橋親水施設で開催しました。同じ川でありながら場所によって違う種類のさかなが見られるなど身近なところで自然の奥深さを感じました。

さかな観察会で見つかった生き物たち



<クロベンケイガニ>



<ヌマチチブ>

逗子では、山や川、海まで変化に富んだ自然に触れることができます。今年も、植物や昆虫、さかななどの観察を通し、豊かな自然環境に触れることで、自然の大切さを理解していただく活動を行なっていきます。

◇◇◇ 名越緑地からの便り ◇◇◇

2025（令和 7）年は、巳（ヘビ）年です。名越緑地には、「ヘビ」の名前が入ったヘビイチゴという植物が生えています。イチゴという名前なので食べられるかも、それともヘビなんて名前がついているので毒があって食べられない？と悩ましいですが、食べることが出来ます。ただし、味はなく、おいしいという人は少ないでしょう。ヘビイチゴもイチゴもバラ科で、大きく分けると仲間になりますが、やっぱり人間よりも鳥や小動物用と考えたほうがいいでしょうね。4～6月頃低い草むらを探すと、小さいけれど緑の中に真っ赤な色なので、簡単に見つけることができます。



国立研究開発法人 森林研究・整備機構
森林総合研究所 多摩森林科学園 HP より



4月まで待てない、という方には、鳥の観察はいかがでしょうか。冬の間は、落葉樹の葉が落ちて見通しがよくなることにあわせて鳥が枝にとまりやすくなる

こと、渡り鳥も休憩にやってくるため種類が増えることなど、

観察をするにはいい季節です。北側が山になっているため北風が吹き付けることもありません。双眼鏡片手に、陽だまりを散歩するのもいい気持ちです。

3月になると、種から芽が出たり、じっと葉っぱを広げながら暖かくなるのを待っていた植物たちが動き始めます。セリやヨモギなども大きくなってくるので、においをかいでみるなど、見るだけでなく触って観察するにも、いい時期です。他の植物が大きくなる前に、春の植物を探してみてください。

私たちは逗子市とアダプトプログラムを結び、緑地の手入れもしています。

緑地の水路や池は、夏の間は雨水と一緒に流れてくる土砂や枯れ葉などで埋まってしまったりするので、冬の間は浚渫などの整備が主となりますが、3月頃からは草がぐんぐん伸び始め、草刈り作業が増えてきます。夏になると草の間から飛び出してくるバッタたちと出会えるのも楽しみです。

今年は、逗子に残された貴重な里山を見て感じてみては、いかがでしょうか。



ごみ問題部会 ニュース

ごみ問題部会はごみの減量化・資源化をテーマに活動しています。

◇◇◇ 海岸のごみ問題について ◇◇◇



分解されないまま残ってしまった木の燃えカス

「ごみはすべて持ち帰りましょう。埋めてはいけません！」

私たちは毎日のように逗子海岸に行っています。この頃気になることがあります。

夕方海岸でバーベキューをする人が増えています。直火はほとんどないのですが、地面に敷物をして、楽しんでほとんどは持ち帰るのですが、燃えカスの木片を全部そのままにしている人がいます。

海岸は砂地で、塩分があるので木片は分解がされません。

ごみはその木片が一番多いのです。

全てのごみは持ち帰りましょう！燃えカスは砂に埋めても分解されないのです！

ちなみに一番ごみが多いのは、海岸に降りやすい田越川に近い方のエリアです。



二酸化炭素削減部会 ニュース

地球温暖化の主な原因である二酸化炭素の削減のための活動を続けています。

◇◇2024年9月～2024年12月の主な活動◇◇

1. 出前授業

(1) 小学校向け出前授業

- 2024/9/13 に池子小学校の5年生(2クラス)に実施しました。

(1) 今後の予定

- 中学校
 - 逗子中：2025/2/4、1日(3クラス)
 - 久木中：2025/2/17-18、2日(5クラス)
 - 沼間中：2025/2/19、1日(2クラス)

2. 地球温暖化防止啓蒙活動

(1) 2024/10/20 逗子市民まつり

- 「ソーラーパワーと電車で競争」を出店しました。
- 集まって頂いた保護者の方々に地球温暖化関連ポスターを使いながら、
 - ◇ 当部会は小中学校向け出前授業を行っている。
 - ◇ 温暖化は大人の責任/加害者で子供は被害者である。
 - ◇ 省エネチェックシートで普段の生活をチェックして行動変容をして欲しい。
 と説明を行いました。
- 合わせて、省エネチェックシート(裏面：ACT NOW) を配布し、省エネや温暖化防止で産業革命以来の世界の平均気温 1.5℃以下に向けての行動変容を説明/アピールしました。63枚配布できました。

(2) 環境会議ニュース 2024年10月号

- 「温暖化防止対策って何ができる」と題して、市民まつりなどで配布している省エネチェックシートや国連のキャンペーン「1.5℃の約束」で提言されている行動変容/ACT NOW の紹介をしました。

◇◇これからを生きる子供の将来を考えませんか！◇◇

私達は春夏秋冬の四季の移り変わりを楽しんできました。

ここ数年春を感じることなく暑さが訪れ、しゃく熱の猛暑の後、爽やかな秋はなく異常な暑さが続き、秋を感じることなく冬が来てしまいました。夏と冬だけの日本になってしまいそうです。

この現象は急激に進む地球温暖化、更に地球沸騰化へ突き進んでいるとしか考えられません。

この地球温暖化は何によって引き起こされているのでしょうか？

皆さんは既にご存じの私達の快適を求める人間生活が、引き起こしているのです。毎日の生活に欠かせない電気、ガスやガソリンを消費することで暮らしやすい生活を送っています。

しかしその消費とは多くの二酸化炭素を地球に放出しているのです。

電気を使うことが何故二酸化炭素の放出に成るのでしょうか。

今日本の発電量の70%以上が石炭、石油を燃やすことで発電しています。



その最も悪者の石炭火力発電所ですが身近な場所、横須賀で新規に石炭火力発電所

1号機 2023年6月3日稼働開始

2号機 2023年12月22日稼働開始

と信じられない事が起きているのです。

今横須賀の市民団体が国を相手取って訴訟を起していますが、国は国民が安定した生活を送るため、火力発電は欠かせないと主張、メディアであるNHKや民放、そして新聞社も火力発電所の稼働の内容や状況を大きく報じていません。

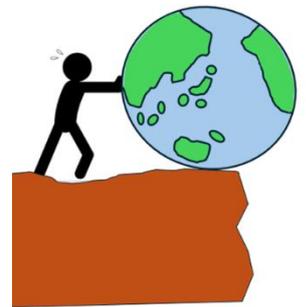
2015年に国連気候変動枠組条約締約国会議のパリ協定で気温上昇を1.5℃に抑える目標を掲げました。それから9年経ち2024年11月11日～11月24日に、世界各国の政府機関が集まり第29回国連気候変動枠組条約締約国会議(COP29)が開催されました。各国が掲げる対策では温度上昇2℃以下に抑えることも危ぶまれる状況です。そんな中、日本は「化石賞」という不名誉な賞を受賞しました。

「化石賞」とは、気候変動交渉・対策の足を引っ張った国に贈られるもので、その国に対する批判と改善への期待の意味が込められています。

このままの状況で、国や、地方の行政、会社、市民が真剣に大改革を目指さないと、将来、ここ数年で地球温暖化はコントロール不能となり、地球沸騰化の暴走状況に成る可能性が非常に大きくなります。

身勝手な人間による地球温暖化は多くの自然破壊、多くの生き物の絶滅を引き起こしています。人間自らの破滅にまい進しているとしか思えません。

現実ここ2～3年の異常気象から皆さんも感じ取れていませんか？ 早急な対策が求められているのです。



生き物は本来、次の世代へ生命を引き継ぐための行動をしています。

しかし今の人間はこの危機的地球温暖化に目をそらし、自分の今しか考えていなとしか思えません。

貴方は子供を愛していると言うだけで、子供の将来を見捨てているのです。

この様な危機的な状況の文面を読んでも、「アアそうだな」で終わっていませんか。

この状況を打破するには、今私達がやるべきことは政治家を動かし、メディアを動かすことです。

それには子供の力が必要です。子供たち数百人、数千人が一斉に声を張り上げるしかないのです。

「大人の皆さん！ 私たちの将来を生きる環境を守って下さい！」

この子供の叫び声が沸き上がるように、大人である私達！

その環境を作りましょう！！



二酸化炭素削減部会 は、出前授業や市民祭りなどで小中学生やその保護者の方々にアピールしています。

執筆者：二酸化炭素削減部会部会員 内田